

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 2005世界の雑誌取次業の展望.....1
- 神保町ブックフェア.....2
- 理事会報告・The Frankfurt Book Fair 2005.....3
- FBF参加者へのインタビュー内容.....4
- 会員短信・会員の動き・訃報・ご案内.....5

2005世界の雑誌取次業の展望

ASA事務局長 Rollo Turner氏
インタビューアー USACO 山川 隆司

2005年11月末ロンドンオンライン会議でASA (Association of Subscription Agents and Intermediaries, London) 事務局長であるRollo Turner氏に2005年の世界レベルでのSubscription Agents Businessを展望してもらいました。以下がその要旨です。

質問：ASAにとってのSubscription Industryの定義をお願いします。

回答：新聞マガジンを含む定期刊行物（電子媒体を含む）を出版社から購読者に対し購入し、又は購読者に代ってアクセスを計り業務を行う業者が一般的にSubscription Agentsと呼ばれていますがASAのメンバーを取次ぐ定期刊行物の主要な分野は学術分野が主体です。

質問：現在のASAメンバーの構成についてお話をください。

回答：世界の主要なSubscription Agentsは殆んどASAに加盟しています。現在43社、その中米国が8社ヨーロッパが25社アジア中近東が10社、日本から4社が加盟しています。大手ではEBSCO、SWETS、日本からは丸善・紀伊國屋も準大手に入ります。中サイズとしてはドイツのOTTO HARROSOWIZZ、英国のPRENAX、日本のUSACOなどですがその他のメンバーも銘々の地域や専門分野で活動しています。

質問：2005年度の世界レベルで見た取引量の増減についてコメントをお願いします。

回答：2004～2005年にかけて学術分野でインターネットによりコンテンツ提供が進み、オンラインジャーナルの普及、コンソーシア商談や電子アーカイブ（バックファイルのコレクション）の提供によって全

体の取引量は増加の傾向にあります。大ざっぱに言って学術分野でのオンラインジャーナルの利用率は全体の50%まで達していると思われます。一方コンソーシアやGoogleサービスなどの影響で個人購読や単体の機関購読が減少しています。

質問：地域的に見た市場の成長について教えてください。

回答：米国ではアカデミック市場に伸びがないのに比べ好景気を反映して民間企業市場が好調です。ただしこれはライブラリーマーケット以外の市場を意味しています。ヨーロッパでは市場の取引量の増大はありませんが減少もしていません。

質問：アジア市場はどうでしょう。

回答：中国の市場が急成長しています。日本は欧州同様市場取引の増大はありませんが比較的安定していると思われます。ちなみに日本の世界におけるマーケットシェアは10～15%と思われます。

質問：現在我々の業界がかかえている問題について述べてください。

回答：インターネット時代に入り大手出版社が大手図書館と直接取引を行っていることが我々にとって大きな問題です。しかしながら私はこれが市場全体に拡大することはないと見ています。これはむしろ一時的な現象で事実一部の大手図書館は取次店を利用して出版社との取引を行うケースも出てきています。今後私達のビジネスに影響を与える要素はいろいろあります。例えば新しいテクノロジーのメタデータサーチ、アグリゲーションなどです。オープンアクセスやPay Per Viewビジネスはゆっくりとその市場が成長しています。Repositoryについてはまだいろいろな問題があります。

質問：これから期待されるSubscription Agents像についてお話をください。

回答：簡単に言って大手学術市場で求められるサービスとは顧客に情報へのアクセスをサービスすることに加えメタデータを提供するマネジメントサービスを備える必要があります。また学術市場以外のコーポレート市場での成長を見のがす手はありません。事実この分野で成功しているASAのメンバーもあることですし。

質問：COPYRIGHTの問題についてお話してください。

回答：ASAの立場は中立ですがお客様が

COPYRIGHTを守ることは市場の成長につながり、その意味では出版社の立場で歩みを共にしていくべきだと思います。

質問：その他のコメントはありますか？

回答：やはりGoogleによる世界の図書館の資料のデジタル化提供サービスは大いなる脅威であり、我々も出版業界と同じ反対の立場です。

インタビュアー：ご多忙のところいろいろのご意見を戴きありがとうございました。

第15回 神保町ブックフェア

10月29日（土）朝小糠雨。昨日までは好天だったが、「秋に三日の晴れ無し」「男（女）心と秋の空」の例え通りとなってしまった。昨年2日のうち1日半が雨と痛い目に遭っているので不安が過ぎる。神保町に着いてみると雨は上がっている。去年も最初は降っていなかったなーと思いはどんどん悪い方へ。既にワゴンには並べてあるが誰もいない。空を見上げながら商品の到着を待つ。しばらくして協会出店場所にトラック到着。うちの荷物かなと窺っていると渡辺流通の小島氏到着。しばし天気の話。「そっちはいいよなー、運んでなんぼやもんなー」と悪態をつきながら（ごめんなさい）荷降ろしを見守る。そうこうするうちにメンバーが到着。周りにも出展社らしき人々が続々と集まってきた。10時半の開店に向けてワゴンに商品を並べ始める。10時頃になると一人のお客様がこちらの作業などお構い無しに商品を物色し始める。すると周りの他のお客様も追随。少しでも早く、他人に取られまいと神保町顧客根性丸出しの攻勢には「まだですよー、10時半からですよー」の声も空しく響く。釣り銭の用意も出来ていないのに「これ下さい。領収書も御願います。」などなど事前のハプニングが続きようやく開始の10時半。硬派が少なくなったせいか思ったより小編成の明治大学応援団のパレードに続き、実行委員長の開会宣言で名目上の販売開始。今回、各社の人的負担軽減のため店番のローテーションを組んだが、皆さん真面目なのか自社の売上が気になるのかワゴンから動こうとしない。一見テキ屋風出で立ちの日賀加藤氏の「お昼行って下さい」の声でようやく2、



3人が雑踏に紛れていく。この頃になると日も差し始め、慌ただしさで天気のことなど忘れていた自分に気がつく。この間もお客が途切れることなく見てはいるが、売上はいまいち。事実上今回初出店でまだお客様の馴染みのない洋書協会だし、周りは殆ど和書の出版社という場では致し方ないと思いつつも「いらっしゃいませ。格安になっていますよ。いかがですか」と愛想を振りまく。午後3時頃に急に雨が降り出し、本日は閉店。明日の段取りを決めて解散。

10月30日（日）昨日と交代された新メンバーを交えて準備開始。今日は雨の心配はなさそう。午前中は前日に比べ人出が少なかったが、午後からは昨日並み。売り方も慣れてきてお客様とのやり取りを楽しめるようになってきた。意外と時間が経つのが早く、「もう3時だよ。後3時間しかないようー。持って帰るくらいなら幾らでもいいから売っちゃえ。」とは周りの出版社。こちらは仕入れた商品なのでそうはいかないと思いつつも周りの雰囲気とおお客様の勢いに負け、「そうですねー、この位でいかがですか？」と大阪商人。

「もう一声」で負け。やはり長年通っていらっしゃる神保町顧客にはかなわない。辺りもとっぷり暮れて裸電球を頼りにラストスパート。周りはずいぶん100円均

一。そこまではお付き合いできない。午後6時撤収開始。その後有志でささやかな打ち上げ。お疲れ様でした。(M.S.記)

理事会報告

平成17年11月28日(月)

1. 理事長から

IFLA ソウル大会：先般韓国出張の際、韓国洋書輸入協会と話し合いを持った。会期前日の8月19日(土)あたりでの食事会を中心とした交流会は可能。JAIP会員の意向を確かめ話し合いを継続する。

2. 委員会報告

(1)会報委員会

会報の広告出稿社が固定化してきているので広く会員から募集する。

(2)ダイレクトリー・HP委員会

11月10日に委員会を行った。HPに関するアンケート結果を踏まえサイトマップの作成に入る。またサーバの設置場所なども検討に入る。次回は12月8日開催予定。

(3)文化厚生委員会

・同好会関連：12月3日に72会ゴルフコンペ、

12月10日にテニス合宿。

・新年賀詞交歓会に関して、理事長提案の会員外の招待は同じ会社を連続して行わないとの方針が確認された。

(4)事業委員会

協会主催セールを来年3月に行う方向で討議、古書会館との交渉に入る。

(5)規約改正特別委員会

改訂の試案を作り、各委員で検討中。来年の早い時期にまとめ、理事会で審議。総会に諮る方向で進める。

3. その他

(1)CCH Japan から出されていた入会申込みが承認された。

(2)アメリカ大学出版局グループから出された退会届けが承認された。

(3)「若手の会」は1月～2月に開く。

The Frankfurt Book Fair 2005 (October 4-8, 2006)

●参加者へのインタビュー

はじめに

フランクフルト図書展は、私達洋書業界のメンバーにとって最も重要な展示会であることは言うまでもありません。海外旅行がまだまだ高価であった20年以上前までは、メンバーが図書展に出席するために団体を組んだり、観光を組み合わせたりのプログラムがあったことが思い出されます。今日の中国、韓国や台湾の人たちが、私達の20年前の姿を思い起こさせてくれます。

経済のグローバル化とインターネットの利用によって、私達JAIPを取り巻く諸環境も急速に変化してい

ます。この刻々と変化し続ける環境を知り、将来を予測するためにフランクフルト図書展へ出席することは、昔以上に、また、昔と違ったヒト、モノ、カネの動きを発見するための重要な機会であると思います。

今回、フランクフルト図書展に出席された方々から、銘々の図書展についての印象とご意見を頂戴いたしました。皆様方が今後フランクフルト図書展に出席を計画される際の参考にして頂けましたら幸いです。

最後に、今回の取材にご協力くださいました方々に厚くお礼を申し上げます。

FBF 参加者へのインタビュー内容

	マーク・グレシャム氏 社長、 United Publishers Services Limited	賀川 洋 氏 代表取締役兼CEO、 日本洋書販売株式会社	久住 多賀子 氏 取締役、 株式会社ゲーテ書房	桑原 七男 販売部長、 株式会社医学書院	稲村 敦 仕入部 商品課 株式会社極東書店
参加目的	東京を訪問することのない中小の出版社と一つ屋根の下で情報交換ができる。出版企画・事業についての動向調査、議論できる。管理面での議論・定義仕入れ、支払い、配送面や品質管理など)	新しい出版の企画の参考。取引条件の交渉。出版部門一協同出版、版權売買。業界人の確認。 (ほのぼのとした雰囲気の中で対人の接点を持つことができる)	普段顔を合わせることでできない外国の取引先と「顔と顔を合わせる」とによって親密さが増すことが意義深い。当社の取引先は、ドイツ語圏の人文社会領域が中心のため、このFairで取引先と一同になれることは大変有益である。	普段顔の見えない相手方と、直に対面することによって、お互いの心情を確認でき、その後の交渉をスムーズに行うことができる。普段説明できない双方の背景説明(的側面、マーケティング側面等)	新しい情報、新しい出版社、新しい出版計画等様々な動向を捉えるため。 Face to faceによる人的な繋ぎを確認、保持するため。
今年の主な関心事・氣付いた点	日本での出版物の購買力低下現象について、大学の予算の問題、少子高齢化の問題、学生の学習手法、趣向の変化の観点から議論したことは大変有意義であった。	バブル崩壊後、日本が目立たない。韓国が躍進してきた。アジア諸国に比べ日本に元気がない。版元の多様な機能を勉強でき、別部門の人との情報交換ができた。	(ブースを回るための時間配分を間違ひ、土曜日にはカタログ類がなくなったところがあった。特に絵本関連)交渉等に時間を割かれ、本をみる時間をゆとり取り取ることができなかった。	9.11以降人出・規模が縮小していたが、今年は出展数、来場者共に増えた印象を受けた。	9.11の年に初参加。そのときに比べると人出が格段に多かった。(主催者の発表で凡そ30万人) 中国・韓国人に比べ、日本人は少なかったようにみえた 韓国の文化的な行事開催時は人出が多かったが、出版物自体の印象は希薄。
初めて参加される方へ	先ず、会場規模が巨大である故、いろんな事象、人物を把握しておくこと。最初の3日間は業界人にとっては多忙な日々です。お互いの時間を無駄にしないために、アポイントメントをとり、時間を守り、論点を明確にしておくこと。ホール、ブース間の移動時間は余裕を持って。体調管理を万全に、飲み水を忘れないように。	最初は先入観を捨て、心を真っ白にして複数、多数のブースを訪問し、次いで興味あるところを掘り下げて訪問し、コミットすること。	時間に余裕のあるアポイントをとること。広い会場を行き来することなく、アポイントの近くでブースを回る余裕を作ることを薦めます。さちつと意見を言える背景のある人の参加を	この業界も、これだけ大規模な催事をする産業であることを確認する絶好のチャンスであり、それを契機にやる気を養って頂きたい。	先ずは、類を見ない出展数、規模をハダで感じて欲しい。 また、直接の自社業務に囚われることなく、大局から、自由な観点からホールを見て「何か」を学んで欲しい。
その他全般で感じたこと	このFairは当業界で最大の催し物です。商品の創出者や、普段は会うことのできない業界の人と会えるまたない場所です。	日本の出版社は、中世から続いているFBFを今後生かすかを考えるべき。 Hall 8、9側の休憩所にあるドイツ料理を堪能できるビュッフェがお奨め。昼食は混雑を避け11:50頃にはスタートすること JAIP ツアー等を試み、中小への実践教育をしたらどうか	日本の経済状況、市場環境を説明する際は、「大変さ」を強調することなく、事実を客観的に述べること。 韓国年であることにも関わらず、その国家イベントを除き、人出は今一(ドイツ人曰く)アジア地域では、近年海賊版が漸減傾向にある。知財意識の高まりか… 航空運賃は、8月前頃に予約すると安価に済む。ホテルは、時間の節約とセキュリティの考慮し料金が高くとも中心部を選んだ。小売店にとっては、ディスプレイも参考になると思う。	日本では洋書マーケットが下降気味。これは日本語書籍も良質のものが発行されるようになっていることも一因である。 オンラインはオンラインとして定着し、物理的プレゼンスとして、再び冊子の顔が見えてきたように感じる。 周辺のホテル代の高いことは不評であるが、電車で30~40分ところに良質なホテルも多く、宿泊の範囲が広がっている。(入場券を持っていると往來の電車賃が無料)	人文系の出版社はコングロマリット化の傾向と、ごく小規模で精鋭化されたものとの二極化の傾向にあるように感じる。(STMは巨大化の一方である。：山川) 交渉・対談時は、Excuseに陥らないように気を使っている。最近夜のパーティーに出席するため会場のごく近くに宿泊している。協会としてブースを持つことの意義は感じない。

(協会ホームページより転載)

会 員 短 信

イタリア書房フィレンツェ支店開設のごあいさつ

ルネッサンスの香りが強く残るフィレンツェ、その中でもアンティークな地域として知られているローマ門近くに、創業47年を迎えたイタリア書房の支店をオープン致しました。これは私達長年の夢の実現でもあります。

まだ店舗は持たず、小さな仮事務所でのオープンですが、イタリア国内に物流と情報の拠点を持つことによってお客様へのより細やかで迅速な対応が可能となりました。今後は日本の顧客のみならず、イタリアのお客様に向けてもビジネスを展開する予定です。本格稼働に向けて転居が済み次第、連絡先をまたご報告させて頂きたいと思っております。

フィレンツェ支店の近況は、イタリア書房のホームページに記載しておりますので、是非ご覧下さい。
(<http://italiashobo.com/home.html>) 今後とも神保町本店、そしてフィレンツェ支店を、どうぞごひいきに！



イタリア書房フィレンツェ
支店長 御法川仁奈

連絡先：〒101-0051 千代田区神田神保町2-23
株式会社イタリア書房
電話：03-3262-1656 FAX：03-3234-6469

会 員 の 動 き

代表者変更（代表取締役）

イースタン・ブック・サービス株式会社

代表取締役

新任：深田良治氏

平野皓正氏、中井正勝氏の両氏は退任

なお、中井氏は引き続きアドバイザーとして勤務されております

異動日：2005年9月

訃 報

元UPS社次長で文化厚生委員としてもご活躍されました川原孝人氏が11月12日肺癌のためご逝去されました。享年66歳。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

長い間協会会報にご寄稿いただいております元丸善本の図書館長 鈴木陽二氏が12月11日にご逝去されました。享年75歳。
長年の労に感謝いたしますと共に謹んでご冥福をお祈りいたします。

新年賀詞交歓会のご案内

来る1月6日（金）の恒例の新年賀詞交歓会が開かれます。

会場はお馴染みのプレスクラブです。多数のご参加をお待ちしております。

（文化厚生委員会）

好評連載中の「洋書の歴史雑記帳」は著者の鈴木陽二氏が永眠されましたため終了させていただきます。
永い間のご愛読ありがとうございました。

（会報委員会）

新刊のご案内



Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary

第5版

和書 ISBN: 4-88996-203-4

2006年2月初旬発売予定

この度、Collins 社発行の COBUILD Advanced Learner's English Dictionary 第5版（和書流通版）の総代理店となりました。ご注文・お問い合わせは弊社までご連絡下さい。

弊社取扱い出版社

E L T (英語教材・語学書)

- | | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| * ABAX Ltd. | * Pearson Education |
| * Cambridge University Press | Longman, Prentice-Hall, |
| * Heinemann | Hachette (フランス語), SGEL (スペイン語), |
| * Jamestown Publishers | Penguin Readers |
| * Language Solution | * R. I. C. Publications Asia Co. Inc. |
| * Macmillan Language House | * Thomson Learning 総代理店 |
| * McGraw-Hill | Heinle & Heinle, Newbury House, LTP |
| * Oxford University Press | |

BOOKS ON JAPAN

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| * 日本出版貿易 (JPT) | * 日貿出版社 | * アルク |
| * アプリコット | * アートデイズ | * アスク |
| * 凡人社 | * 長風社 | * 学研 |
| * グラフ社 | * 北星堂 | * ジャパン・タイムズ |
| * JTB 出版事業局 | * JOIE, INC. | * 講談社インターナショナル |
| * くろしお出版 | * 南山大学宗教文化 (研) | * ナツメ社 |
| * 小学館 P.S. | * 主婦の友社 | * 創英社 |
| * スリーエーネットワーク | * タトル出版 | * ユニコム |
| * アーバンコネクションズ | | |



日本出版貿易株式会社

本社 (国内営業一部) 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 1-2-1 Tel: 03-3292-3755 Fax: 03-3292-8766

大阪営業所 Tel: 06-6886-7176 Fax: 06-6886-7131 九州営業所 Tel: 092-651-3785 Fax: 092-651-1191

WEB サイトでの在庫検索・発注 <http://yoshojptco.co.jp>